

ペレニアルライグラス「夏ごしペレ」は耐暑性に優れる

「夏ごしペレ」は、多収性及び耐暑性に優れ、阿蘇の高標高地におけるペレニアルライグラスの品種として有望である。

農業研究センター草地畜産研究所 (担当者: 古田 雅子)

研究のねらい

阿蘇の高標高地域で栽培されている寒地型牧草について、新たな優良草種、品種の普及を図る目的で、収量性やその他の特性について調査し、優良品種を奨励品種として選定する。今回、ペレニアルライグラスの新品種「夏ごしペレ(晩生)」について、県奨励品種である「フレンド(晩生)」を比較品種として、収量性やその他の特徴を明らかにする。

研究の成果

1. 「夏ごしペレ」の病害程度、虫害程度、草丈、秋の被度については、比較品種と同程度である(表1)。
2. 「夏ごしペレ」の各年の乾物収量および3年間の合計乾物収量は、比較品種と同程度である(図1、図2)。
3. 「夏ごしペレ」の秋以降の乾物収量は、1年目および3年間合計で比較品種より有意に多収となることから耐暑性に優れる品種である(表2)。

成果の活用面・留意点

1. 阿蘇地域の草地において比較品種と同様に混播利用し、秋以降の収量増加技術として活用できる。
2. 1番草の収穫適期は、5月下旬から6月上旬である。
3. 2番草以降の刈取時期は、草勢を見て適期に収穫する。本試験では、2、3年目において、天候による草勢不足により2番草の調査時期を遅らせたため、3番草は調査未実施の結果である。

表1 各品種の生育特性

早晚性	品種名	病害	虫害	草丈			秋の被度 0~100%
		無・極微1 ~甚9 8~10月	無・極微1 ~甚9	(cm)			
				1番草	2番草	3番草	
晩生	夏ごしペレ	2.3	1.1	54.5	36.3	32.1	60.3
晩生	フレンド	2.4	1.1	51.2	32.7	30.7	59.8

- 1) 病害、虫害、草丈は2019年~2021年の平均
- 2) 播種は、2018年9月19日で、播種量は、0.3kg/a
- 3) 施肥量は、基肥がN:P₂O₅:K₂O=0.8:1.3:0.8(kg/a)、
維持年年間施肥量は、N:P₂O₅:K₂O=2.0:1.2:2.0(kg/a)で、早春、1番草、2番草刈取後の3回に分けて散布
- 4) 調査日 1年目:6月17日、8月2日、10月11日、2年目:6月9日、10月28日、3年目:6月10日、11月16日
- 5) 病害は、主にいもち病および冠さび病と考えられる
- 6) 秋の被度は、最終年度の最終刈取後の地面を覆っている牧草の割合を示す

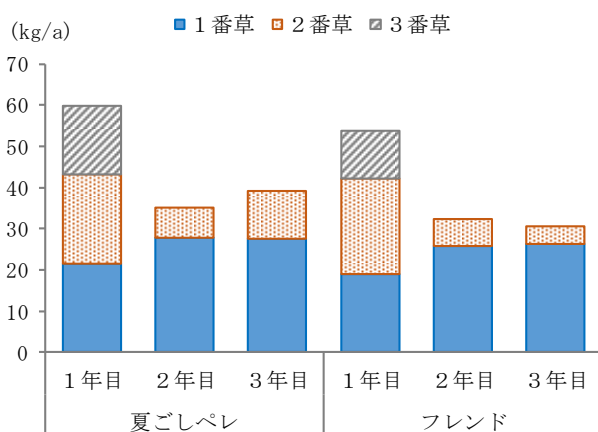


図1 3年間の乾物収量

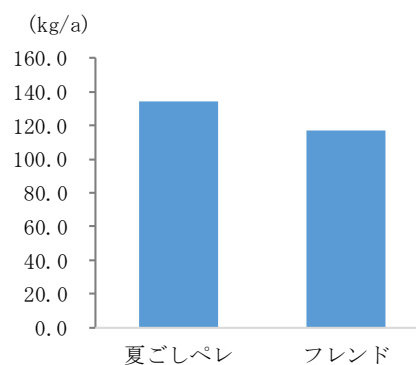


図2 3年間合計乾物収量

表2 秋以降の乾物収量

品種名	(kg/a)			
	1年目 10月11日	2年目 10月28日	3年目 11月16日	3年間 合計
夏ごしペレ	16.6 *	7.4	11.6 †	35.6 *
フレンド	11.8	6.6	4.4	22.8

- 1) t-検定(*:p<0.05, †:p<0.1)
- 2) 記載月日は、調査日

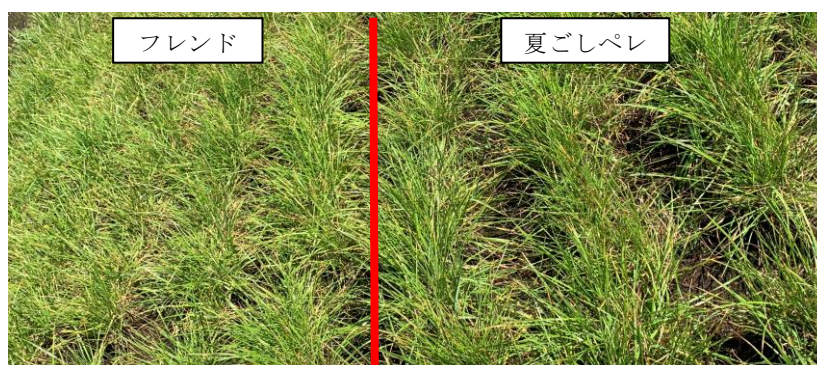


図3 越夏後の9月の草勢